

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】総合演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	吉村 美路	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

【ゼミの概要/キーワード：体験型学習、組織行動、コミュニケーション、心理マーケティング】前期での学びをベースとして、より発展したチームの連携とディスカッションを軸に、テーマに沿った講義・演習・実習を展開します。前期での体験研究をより推し進め、後期ではゼミメンバーが企画し、運営する地域貢献活動を実施します。後期の最大の特徴として、「経営」の視点を取り入れてもらいます。何をどのようにすれば、手持ちの資源で最大の利益を生み出せるか考え、企画してもらいます。活動当日の様子は、動画を作成し動画サイトに公開するなど、皆さんのフレキシブルでワクワクするようなアイデアを期待します。「自ら考え行動する」ことを発展させ、「所属組織への貢献」「チームでの動き方」「周囲をどのように巻き込めるか」を後期の大きな学びのポイントとしています。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	学外活動・講義・演習の方法をとります。 グループワークや、必要に応じてディスカッションも交えながら進めていきます。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	【講義】オリエンテーション：ゼミの運営方法と、後期の授業のスケジュールなど	自己紹介、ゼミの進め方・前期計画・成績評価の方法・学習の目的と目標・習得すべきスキルなどについて解説します。	□
第2回	【講義】クリティカルシンキングについて 【演習】ミニディベート 体験型研究②：体験内容のとり決め(ディベート実践)	【講義】ディスカッションで見えてくる世界 ：相手の意見を引き出すスキル ：正しさとは何か？ 【演習】ミニディベートをやるう！ ・[事例検討]賛成派と反対派チーム ・体験型研究とり組み内容の選出 →何をやるか、目的は何か →貢献の視点から、経営の視点から →自分たちにできること・できないこと →誰を巻き込むか →日程決定	□
第3回	【講義】経営の視点から(1) 【演習】体験型研究②：事前準備	【講義】経営の視点から企画すること ：ボランティアと労働の違いについて ：付加価値ということ 【演習】当日スケジュール考案 ：事前に準備するもの ：自分は何を見て、何を考えたいのか ：自分たちが何を生み出し、誰に何を与え、何を得たいのか	□
第4回	【講義】経営の視点から(2) 【演習】体験型研究②：事前準備	【講義】経営の視点から利益について考えること ：元手の資金と利益について ：差額はどのように活用するか 【演習】当日の役割分担【全体ディスカッション】 ：インタビュー内容や調査事項のリスト作成 ：体験後にどのように成果を生かすか	□
第5回	【演習】体験型研究②：学外実習	【学外】学外での体験型実習へ行こう！	□

第6回	【講義】活動後心理について（組織心理、集団心理） 【演習】体験型研究②：事後の振り返り(1)	【講義】活動後に集団に訪れる心理行動 ：自分のモチベーション推移を分析 ：山を共に登った同志への感情 ：事後アクションの有無による、心理。 →企画に協力してくれた方々の心理 →企画者側の心理 【演習】インタビュー内容や体験の事後アクション ：インタビュー内容分析 ：体験でお世話になった方へ事後アクション →何ができるか、どのような効果があるか	□
第7回	【講義】成果のアウトプットに現れるアイデンティティ(1) 【演習】体験型研究②：事後振り返り(2)	【講義】あなたらしさの表現と社会貢献☒ ：誰のために成果を表現したいのか ：どんな方法でアウトプットしたいか ：自身のスキルでやりたい方法ができるか 【演習】体験でお世話になった方への事後の取り組み →アクション準備	□
第8回	【演習】体験型研究②：事後アクション	【演習】体験でお世話になった方へ、事後の取り組みアクション	□
第9回	【講義】成果のアウトプットに現れるアイデンティティ(2) 【演習】体験型研究②：事後振り返り(3)	【講義】あなたらしさの表現と社会貢献② ：成果のアウトプットで生じた自分の変化 ：体験の中で印象的だったこと、伝えたいこと 【演習】グループ形成～発表アイデア出し	□
第10回	【講義】成果のアウトプットに現れるアイデンティティ(3) 【演習】体験型研究②：事後振り返り(4)	【講義】あなたらしさの表現と社会貢献③ ：着眼点・表現方法から何が見えるか？ ：ゼミの仲間のアイデンティティについて →「この子はきっと、こんな人」 【演習】：発表骨組み部分各チーム発表	□
第11回	【講義】体験型学習振り返りのポイント(1) 【演習】体験型研究発表準備(1)	【講義】事前の予測と実際の結果の乖離について ：体験前予測と結果はどう違ったか ：何が良くて、何が改善すべきだったか ：最大の成果は何だと思うか 【演習】体験型研究発表準備☒	□
第12回	【講義】体験型学習振り返りのポイント(2) 【演習】体験型研究発表準備(2)	【講義】未来にどのように生かすか ：体験により誰にどのように貢献できたか ：体験に際して、誰がどのように助けてくれたか ：今回の活動を、どのように生かせるか 【演習】体験型研究発表準備②	□
第13回	体験型研究発表(1)	【演習】前半チーム発表 ・発表に対するディスカッション	□
第14回	体験型研究発表(2)	【演習】後半チーム発表 ・発表に対するディスカッション	□
第15回	後期ゼミの総まとめ・1年間の総まとめ	後期の振り返りとまとめ・1年間の総まとめ	□

#### ■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

【事前学習】次回授業のテーマについて、関連する自己の体験や印象的な事例をピックアップしておくこと（2時間程度）。【事後学習】講義で学んだことを再確認の上、自分なりに再考すること。課題が与えられたときは、その日のうちに解決するよう心がけてください（2時間程度）。

#### ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

講義の最後に行う小レポートで挙げた質問に関して、次回講義の冒頭で解説する。その他、都度質問に応じます。

#### ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	幅広い知識を生かしながら、より円滑なチームプレイを実施できるよう、現場での確かな行動をとることができる。社会において発生する様々な出来事に興味関心を持ち、自分なりに考察することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	組織行動・社会心理の理論をベースに、現実の世界で起こるチームの様々な心理特性を理解できる。ビジネスにおける課題発見力および解決力を身につけ、現場で発揮することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	クリティカルな指摘を真摯に受けとめ、自己の成長につなげることができる。人の心理を的確に捉えながら、ビジネスを遂行できる。

#### ■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
	0%	0%	50%	50%

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

【その他：50%】 学びの成果をプレゼンテーション大会の形で評価します。

**■テキスト(Textbooks)**

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	教科書として購入する必要はありません。必要に応じ、授業の中でプリントを配布します。	
2		
3		
4		
5		

**■参考図書(references books)**

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ロバート・キーガン(2017)「なぜ弱さを見せあえる組織が強いのか」英治出版	4862762204
2	エイミー・C・エドモンドソン(2014)「チームが機能するとはどういうことか」英治出版	4862761828
3		
4		
5		